

～400年の時を越えて～

岡市民活動推進課 ☎ 620・1604

大分県竹田市と「歴史文化交流パートナーシップ宣言」を行いました

本市とゆかりの深いまち、竹田市。大分県の南西部に位置し、熊本県・宮崎県と境を接しています。古くは、難攻不落の名城とされた岡城の城下町でした。現在、国指定史跡となってる岡城は、滝廉太郎の「荒城の月」のモチーフになった場所としても広く知られています。

今年の6月、竹田市長が本市を訪問され、今後の両市

の交流についてご提案をいただきました。それに応え9月29日に開催された「岡藩城下町400年記念式典」に参加した木本市長・中村市会議長は、「歴史文化交流パートナーシップ宣言」を行いました。今後は竹田市と連携を強めながら文化的交流の協定締結をめざしていきます。

茨木市とのかわり

文禄3年(1594年)に岡城主となった中川秀成は、茨木城主であった中川清秀の次男。秀成は茨木出身の家臣を多数連れて入城しており、今でも竹田市には、安威・佐保など、茨木の地名の苗字が存在しています。

当時の岡藩は日本におけるキリシタン信仰布教の一大拠点でした。茨木の山間部を治めていたキリシタン大名の高山右近が清秀の従兄弟であったため、中川氏歴代城主は信仰に対して寛容であり、江戸幕府の禁教令以後も密かな信仰は存続しました。その名残が「サンチャゴの鐘」や「キリシタン洞窟礼拝堂」などの文化財・史跡として残っています。

また、茨木市名誉市民である川端康成は、小説「波千鳥」の取材旅行で竹田市を訪れており、作中で、竹田市はヒロイン文子の故郷として描かれています。この旅行の際に竹田高校で講演を行っており、今もなお竹田市では語り継がれているそうです。また、竹田の地酒「千羽鶴」は、康成自身の命名によるものです。



サンチャゴの鐘▶



▲ 11月に市内を彩る、たけた竹灯籠「竹楽」